



# 審査結果報告書

2024年 7月 24日

主査 氏名 村雲芳樹 

副査 氏名 落合太吾 

副査 氏名 三階貴史 

副査 氏名 末永光広 

1. 申請者氏名 : DM20026 古江 明子

2. 論文テーマ :

Inhibition of TP signaling promotes endometriosis growth and neovascularization

(トロンボキサン受容体シグナル阻害は子宮内膜症進展および脈管形成を促進する)

3. 論文審査結果 :

本研究は、トロンボキサン受容体シグナルの阻害が子宮内膜症の進展と脈管形成の促進に繋がることを、子宮内膜症マウスモデルを用いて明らかにした研究である。トロンボキサン受容体ノックアウトマウスの腹壁に移植した子宮内膜組織片は、野生型マウスに移植した組織片と比較して血管新生、リンパ管新生が促進され、組織の肥厚・増殖がより顕著に認められた、また、内膜組織片に浸潤したマクロファージから VEGF 等の血管・リンパ管新生に関わる増殖因子が分泌されていた、等を証明し、トロンボキサン受容体シグナルの調節により子宮内膜症の治療に繋がる可能性を示した。審査会では以下の点について討論した。

- ・トロンボキサン受容体ノックアウトマウスの子宮内膜の変化について
- ・移植組織の血管、リンパ管増生がどこから移植片に侵入するのか。
- ・どのような刺激により、移植組織内にマクロファージが浸潤するのか。
- ・マクロファージはドナー由来か、レシピエント由来か。
- ・この結果をどのように臨床に応用するのか。

審査会における討論にも適切に答えており、また研究内容も今後の子宮内膜症の基礎研究、臨床研究に大きく貢献するものであり、インパクトの高い研究と考えられるため、博士の学位に相応しいとの結論に至った。